

# 令和6年度 動物実験・遺伝子組換え実験委員会 議事要旨

令和6年4月9日 16:10~16:25 臨床研究部研修室

出席者（敬称略）：大矢（委員長）、坏、今澤、坂野、曾根（書記）

（1）令和6年度委員の承認について

令和6年度の委員は以下のとおり承認した

委員長	大矢 佳寛	（自己免疫疾患研究室長）【実験動物管理者】
委員	坏 尚武	（臨床研究部長）
	今澤 俊之	（統括診療部長）
	坂野 和彦	（企画課長）
庶務	曾根 恵一	（企画課 契約係）

（大矢委員長）

それでは、令和6年度動物実験・遺伝子組換え実験委員会を始めます。

まずは、議題（2）昨年度実施報告についての報告をお願いします。  
動物実験が4題と遺伝子組換えが1題ございます。

#2023-1 鉄欠乏による糖尿病性腎症進行機序の病態解明

（今澤医師）

報告書にもありますが、実施する時間が確保できず実施出来ておりません。動物の搬入もありませんでした。

令和6年度に再度同じ内容で申請いたします。

#2023-2 制御性T細胞による特異的免疫制御の研究

#2023-3 （遺伝子組換え実験報告）

（大矢医師）

計画通りに実施し、特異性を高めた制御性T細胞の産生手法を作成しております。

成果については、報告書のとおり、学会で報告しております。

2023-3番は遺伝子組換え実験となります。動物を用いて実験をしております。

以上となります。

#2023-4 細胞外マトリックス（ECM）を利用した新たな睥ランハンゲルス島の研究

（坏 医師）

昨年度ラット 20 匹を使用して、睥島の実験をしまして、効率よく分離することが出来ました。これに関しては、科研費の経過報告としております。

#2023-5 大動物における効率的な腓ランハンゲルス島（腓島）分離に関する研究  
(坏 医師)

イヌから効率よく腓島を分離する研究なのですが、コロナの影響もあったのですが、人員、設備が整わず行うことが出来ませんでした。整い次第行う予定です。

(大矢委員長)

続きまして、議題（3）今年度実施申請について順に。

#2024-1 鉄欠乏による糖尿病性腎症進行機序の病態解明  
(今澤医師)

昨年度報告のタイトルと内容も同じなのですが、研究目的は課題名のとおり、鉄欠乏による糖尿病性腎臓病進行機序へのミトコンドリアの関与を解明することです。これまでに我々は糖尿病患者を対象とした臨床研究により、鉄欠乏が腎臓を悪くすることを明らかにしてきて論文を発表したので、糖尿病性腎臓病の増悪機序を明らかにするために、なぜ鉄欠乏が悪いのかをモデルマウスを使用して研究を行います。実験方法は、日本クレアから片腎摘出の糖尿病を起こすマウスを購入し、4週齢時から鉄濃度を変えた2種類の高塩分食を投与。8～12週齢時に、sacrificeをして、尿および血液検査の解析、腎組織について組織学的解析、蛋白発現解析、遺伝子発現解析、網羅的Omics解析を行います。あとは計画書のとおりとなります。

#2024-2 細胞外マトリックス（ECM）を利用した新たな腓ランハンゲルス島の研究

(坏 医師)

マウスの細胞外マトリックス化ラットを作成して異種移植が免疫抑制剤の関与を軽減する腓島を作成しています。昨年度まではラットの分離を出来るようになりましたので、今年度はマウスから腓島の分離と間葉系幹細胞の分離を行います。

#2024-3 大動物における効率的な腓ランハンゲルス島（腓島）分離に関する研究  
(坏 医師)

小動物から大動物に移行するにあたって、ビーグル犬から腓島を効率的に分離するという研究を以前やっけていまして、それを今後も続けていくということです。

#2023-4 制御性T細胞による特異的免疫制御の研究

#2023-5 （遺伝子組換え実験報告）

(大矢委員長（研究者）)

遺伝子組換え動物を用いて動物実験を行うという意味合いで、内容としては同一のものとなります。制御性T細胞による免疫抑制の研究ということで、特異性MHC T細胞

胞を埋め込んだ遺伝子組換えマウスを用いて、特異性の異なる動物種を用意して、それらの免疫応答を個別に測定するということが、それらを臨床に応用していくための研究を行う予定です。

(大矢委員長)

質問などございますでしょうか。(質問なし)

それでは、本年度動物実験4題、遺伝子組換え実験1題について承認を頂いてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

そのほか何かございますでしょうか。

それでは以上で動物実験・遺伝子組換え実験委員会を終了させていただきます。

ありがとうございました。